

## 新緑の西沢渓谷 (2018/5/28)

by TI

5/28に西沢渓谷のハイキングに行きました(参加数9人)。計画は1ヶ月前前に立てられ、日が押し迫って来るも当日の降水予報確率は高いままで、決行をほぼ諦めかけていました。前日になって降水予報確率は下がり、決行のメールが届きました。当日朝は曇天で暑くもなく、帰り際には青空がのぞき、晴れ女と男に感謝する天候日になりました。

コースは、約10kmの遊歩道一周(約4時間)です。スタートするなりエゾハルゼミの合唱が迎えてくれました。鳴き声はカジカカエルに似ています。帰り道では、透明な羽根を持つ体長3cmほどのその本物を道端で発見。数時間前まで生きていたのでしょうか。また、ロマンチックな名を持つ「オトシブミ」の揺籃(ゆりかご)も道端で見つけました。物知り仲間が教えてくれます。

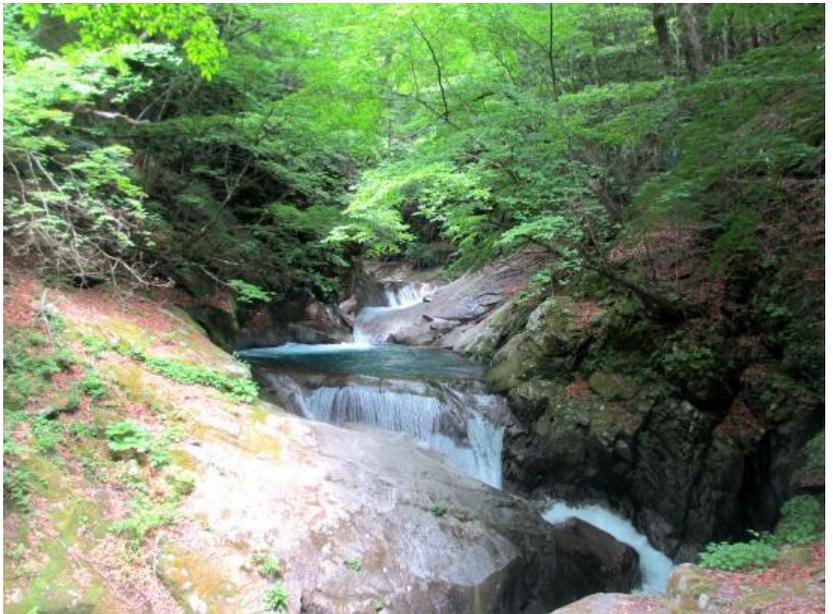
新緑から深緑に移行しかけたばかりの森林の中を、翠緑(すいりょく)の深淵や滝を見ながらの川辺を、そして滝の轟音、渓谷急流の音、野鳥の声、セミの合唱などの躍動感ある自然音に囲まれてのハイキングで、「癒し」と「集いの楽しさ」、そして「快い疲れ」がありました。



(from 山梨市観光協会 西沢渓谷パンフレット)



二俣吊り橋



三重の滝





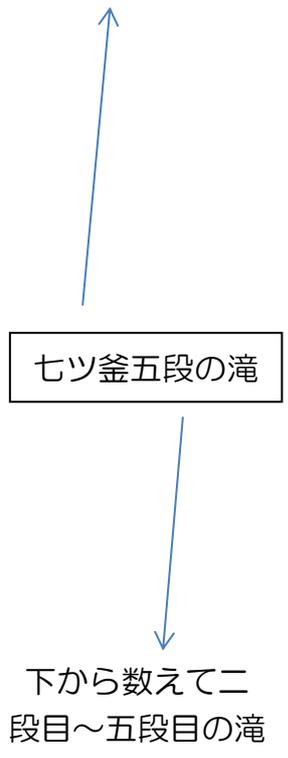
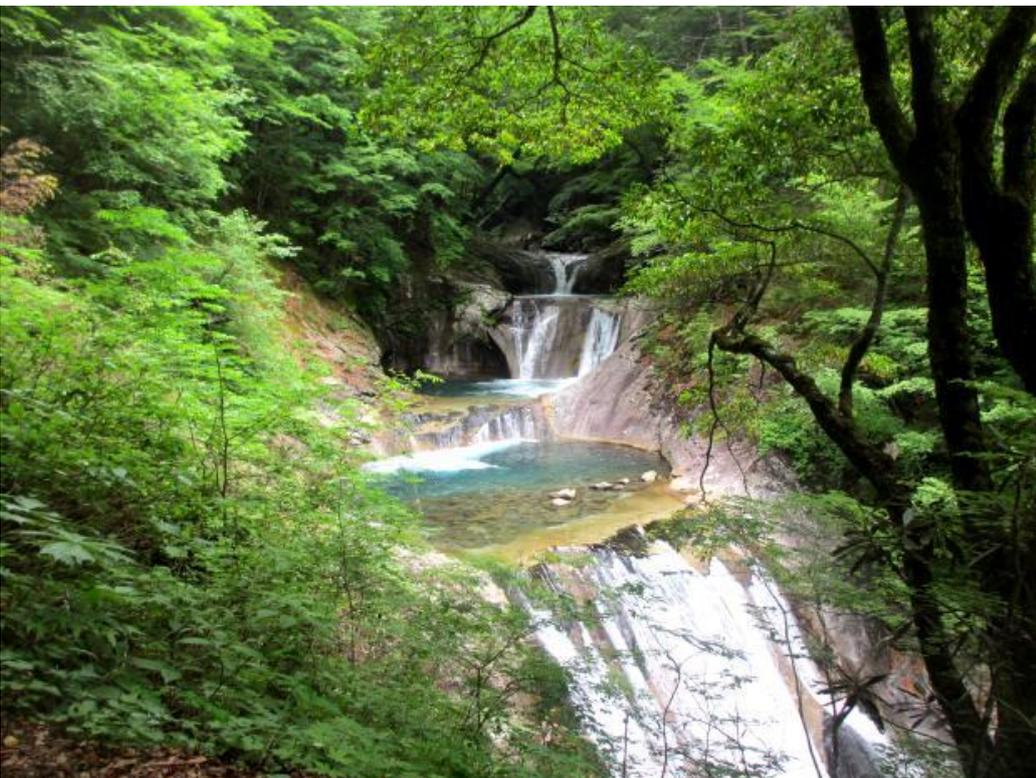
竜神の滝：根の付いた木が引っ掛かっている



貞泉の滝



下から数えて一段目と二段目の滝





シャクナゲ（花はほとんど終わっていた）



オオミズアオ(開帳 8cm 程度) (蛾の一種)： 前・後翅とも黄色の小さな眼状紋がある。



オトシブミの揺籃  
(長さ 20~25mm)

参考：オトシブミ科の甲虫のメスは、産卵するときに、新芽や新葉などの生きた葉っぱを切って、その切った先に産卵し、その葉っぱをまいて筒状にしたりします。筒状に巻かれた葉が、道端にわざと落とした手紙「落とし文」に似ていることからオトシブミと呼ばれています。巻かれた葉っぱのなかで、孵化した幼虫は、萎れていく植物の中身だけを食べて成虫になります。

葉っぱの加工方法は種によって様々だそうです。左図は、葉を幾重にも折りたたんで作った葉巻き状の揺籃です。



トチの木の花



方丈橋を渡り終えて（この先を登れば七ツ釜五段の滝の半周回に入ります）